

令和7年度

木頭小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、主体的に学習する力を伸ばすための指導の実践。
 ○話し合い活動を充実させ、自分の考えについて、根拠を明らかにしながら表現できる児童の育成。

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた学習課題に素直に取り組んでいる児童が多い。</p> <p>●基礎的・基本的な知識・技能は定着しつつあるが、実生活での活用がまだまだ不十分である。</p> <p>●「何を学ぶか」に偏り、「何ができるようになるか」、「どのように学ぶか」が明確でないため、知識・技能の主体的な習得になっていない。</p>	<p>・一人一人が自身の学習課題を把握し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。</p> <p>・基礎的・基本的な知識・技能を実生活の中でも活用できる。</p> <p>・単元や学年全体や他教科等との関連を意識しながら知識・技能を能動的に習得する。</p>	<p>・「書くこと」を定着させるために、ノート指導の充実と、書くことを厳選しタブレットを効果的に活用する。(低学年)</p> <p>・板書やノートのルール化、デジタル教科書などのデジタルツールとの連携など教育環境のUD化を充実する。(中学年)</p> <p>・全員が達成感を味わうことのできる問題に取り組ませる。また、児童にとって身近な題材から問題を提示したり、発展問題につなげたりして実生活で活用できることに気付かせる。(高学年)</p>		<p>・(低学年)ノート指導として、机の上の物の置き方やノートの書き方を日々の授業で続けたところ、児童自らが学習しやすい環境を作ることができるようになった。</p> <p>・(中学年)学習の流れをホワイトボードに記載し、時間や流れを意識した主体的な学習が展開できた。学習リーダーの役割を担うことで、学習意欲の高まりが見られた。</p> <p>・(高学年)1時間の授業の流れを提示することにより、難しい問題にも落ち着いて粘り強く取り組むことができるようになった。</p>	<p>・小学校への入門期から、学習に必要な物をそろえたり、机上の使い方など自らの学習環境を整える習慣を身につけさせる。</p> <p>・複式、単式にかかわらず、一単位時間の流れ(課題・めあて、自力解決、話し合い、ふりかえり等)を明確にし、系統的に取り組む。</p> <p>・漢字と計算を確実に習得できるよう、朝の活動の時間にドリル学習を一斉に行う。</p> <p>・学校図書館の充実と読書力を育む質の高い読書活動に取り組む。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○積極的に自分の思いや考えを表現することができる。</p> <p>●相手が伝えたいことを理解し、自分の意見や考えを整理して伝えることが苦手な児童が多い。</p>	<p>・豊かな語彙を獲得しながら聞かれていることを正しくとらえ、自分の意見や考えを表現することができる。</p> <p>◎思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されることを実感できる。</p>	<p>・自信を持って行動させるために、質問や発問、表現すべきことを視覚化させる。(低学年)</p> <p>・自力解決の場と対話による協働的な学びの場を意識した授業の流れをつくる。(中学年)</p> <p>・思考ツールを用いて自分の考えを整理する場を設ける。また、ホワイトボードやICTを活用した発表・話し合い活動の充実を図る。(高学年)</p>		<p>・(低学年)タブレットを活用し、いつでもどこでも気軽にメモができる環境を作ったことにより、メモをする習慣が付き、自信を持って、自分を表現することができるようになった。</p> <p>・(中学年)複式をいかにした対話や協働的な学びを設定することができた。</p> <p>・(高学年)児童が進んで、それぞれの学習活動や自己の学びの段階に合った思考ツールを選び、活用する場面が増えた。</p>	<p>・根拠に基づいて自分の意見を論理的に話したり、書いたりする活動を授業の中で意図的に行う。</p> <p>・学校行事や児童会活動で自己有用感を育み、自他の思いや考えを伝え合うことのよさを体感させる。</p> <p>・一人一人の思考・判断・表現活動と話し合いなどの対話による知識・技能の習得が展開される授業改善に取り組む。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○与えられた課題に対しては、素直に一生懸命取り組むことができる。</p> <p>●自分で課題を見付け、課題解決に向けて取り組むことが苦手である。</p>	<p>・自らの学習を調整しながら、主体的に取り組むことができる。</p> <p>・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら「深い学び」となる習得・活用・探求ができる。</p>	<p>・スモールステップで達成感を味わわせ、自ら進んで行おうとする態度を育てる。(低学年)</p> <p>・一週間分の家庭学習を提示し、自分で計画を立て、実践、評価・改善に取り組む資質・能力を育てる。(中学年)</p> <p>・自主学習の方法について提示し、興味のある分野を追究したり探求したりする楽しさを味わわせる。(高学年)</p>		<p>・(低学年)できることを増やしていけるように、スモールステップで支援したことにより、意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。</p> <p>・(中学年)家庭学習計画を予定を書き加えたり、進んで振り返りを記入したりして自らの学習を調整する態度が育った。</p> <p>・(高学年)日々の学びの振り返りだけをするのではなく、「声優さんについて」や「点字の仕組み」、「野球の投球法について」など、興味のある分野を追究したり探求したりする楽しさに気付きつつある。</p>	<p>・授業の最後にふりかえりを行い、各教科の見方・考え方のよさを実感したり、次の学習への見通しをもったりして、学習したことの進化・発展を図る。</p> <p>・家庭学習の習慣(時間、学習環境の改善、自主学習ノート)に家庭と連携し取り組む。</p> <p>・発達段階に応じて、学習計画を立て、取組状況を自己評価できる力を育て、中学校につなげる。</p> <p>・小中一貫校のよさをいかし、9年間で「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「何ができるようになるか」について校内研修などで共有する。</p>